



学校だより

平成30年度 5月号
平成30年 5月1日
さいたま市立大谷口中学校

【学校教育目標】 かしこく 美しく たくましく

「場を浄（清）める」

校長 柳澤 登紀男

平成30年度がスタートして1か月が過ぎようとしています。木々は新緑が鮮やかになり、花壇やプランターにはPTAの皆様が植えてくださった花々が見事に咲き誇り、明るく生徒を迎えてくれています。校舎の周りやグラウンド、学校の周囲を歩いてみると様々な発見があります。体育館の裏から階段を上がり学校の外へ出てみると、フェンスにペットボトルを活用した手作りのミニプランターがずらりと掛けられ、かわいいパンジーが顔を見せてくれます。プランターには短い素敵な言葉がひとつずつ書かれています。谷田ネットワークの皆さんの温かい心が伝わってきます。ありがとうございます。校庭に目をやると、体育の授業での集団行動の練習が行われていました。体育委員の大きな号令がかかると素早く「体操の隊形」に広がり、一人ひとりが周囲を見回し、自分の立っている位置が正しいか自分で判断して修正しています。よく見るとなんと1年生、びっくりです。素直でひたむきな様子に、日に日に中学生らしくなっていく姿を想像し、これからの成長が楽しみになりました。

さて、大谷口中に来て、感心していることがあります。生徒が熱心に清掃や美化活動に取り組み、教室には常に手が行き届き整頓され、個性あふれる学級内の掲示物と共に、落ち着いて温かみのある学習環境ができています。また、玄関、廊下、階段、特別教室の前などには、生徒の様々な活動やその成果、生活向上やいじめ防止にむけた取組、教科への興味・関心を喚起するもの等、様々なものが整然と、見やすく工夫されて掲示・展示されています。グラウンドや花壇もしっかりと整備されています。この素晴らしい環境は、落ち着いた学校生活と大谷口中生をつくる素直で温かい雰囲気を支えている大切な要素であると実感しています。ただ、校舎の裏やグラウンドの隅など見えにくい所には、ごみなどが落ちていることもあります。今までの、先生方や地域の皆様をはじめとする様々な方々の指導・支え・見守り・見届けの積み上げに感謝するとともに、「もうひと押し」すれば、さらに大谷口中は素晴らしくなると確信しました。

「時を守り、場を浄（清）め、礼をつくす」（哲学者・教育者である森信三先生の言葉）は、多くの方が引用します。私には、特にこの中の「場を浄（清）め」が強く心に響きます。「割れ窓理論」「ハイインリッヒの法則」という別のキーワードと共に、「学校が荒れた」時代に何度となく経験した自分の苦い記憶ともうひとつの思い出が度々蘇ります。

煙草の吸い殻や空き箱、はき捨てられたガム、給食の食べ残し、雑誌類等々、いくら掃除をしても次から次へと校舎内や校舎周囲から出てきました。問題行動のある生徒への「粘りの指導」が延々と続きました。箒・塵取り・ゴミばさみ・軍手・ラバーカップ・ビニール袋を常に持ち歩き、トイレも含め、所構わず掃除しました。一向に収まらない問題行動、無くならない「質の悪いごみ」、自分の指導力の無さに悔し涙したこともありました。先生方と共に苦勞を何年も重ねると、次第に学校が落ち着き始めました。そうすると、不思議と「質の悪いごみ」が減ってきます。苦勞を共にした先生方は、その後、「もうあの時を繰り返すまい」と「場を浄（清）める」ことの重要性を心から理解し、それぞれの立場で生徒に指導し、生徒と共に学校の環境整備、美化に力を注ぎました。さらに続けるうちに、少しのごみが落ちていても気になるようになりました。もちろんすぐにその場で拾います。「これは荒れる兆候かも知れない」という「予感」が持てるようにもなりました。

その十数年後、教頭選考試験受験のため、市内のある中学校に出向きました。試験終了後、新任時代は大変お世話になった会場校の校長先生を、あいさつと終了報告に校長室に訪ねました。そこには不在で校庭か校舎周りにいらっしやるとのこと。校舎裏でやっとお会いできた時、校長先生は汚れたジャージ姿、泥まみれになった雑誌、捨てられた牛乳パックなどをビニール袋に入れていました。袋はずでに大きく膨らんでいました。十数年前の、自分の姿と重なりました。同時に胸が熱くなりました。試験の出来に落胆していた自分でしたが、校長先生の姿に叱咤激励されました。

「環境が人をつくる」ともよく言われます。改めて言葉の重みをかみしめ、これからも学校の教育環境、学習環境の整備とその維持に努めてまいります。5月7日（月）からは、月に一度、学校を磨くだけでなく自分も磨く「無言清掃」を実施します。生徒の取組に期待しています。

